

報告第三号

株式会社幌延町トナカイ観光牧場経営状況報告

平成20年度のトナカイ観光牧場の入場者数は、6千8百46人で、前年度の7千4百26人と比較し、5百80人の約8%減と計画を下回る実績となった。今後の展開として今年4月から入場料を無料とし集客の増加を図り、トナカイの飼育管理、花壇の整備拡充と計画的に施設補修等を行いながら、各種関係機関と連携を図って施設の充実を進めて行きたい。

経営面では、町からの受託収入千4百91万7千円を含めて千8百74万5千円余りとなり、営業費用を差し引いた、当期利益は千3百25円となった。  
問 今年度より入場料を無料としたがその影響はどうか。  
答 赤外線カウンターを設置、5月現在で7千5百41名となっている。



問 21年度予算で餌の売上百20万円の根拠は。  
答 昨年まで百円で販売していたが、今年度から2百円とし、6千袋を販売見込みとした。

問 ブルーポピーの販売用苗の確保はできるのか。  
答 昨年より栽培数を増加し約5千株程度販売が可能です。

地域の課題をとらえて 3氏が一般質問



高橋 秀之

Q、生活関連サービス提供と経済活力について。  
A、サービス提供、経済活力の維持に努める。

質問 医療を中心にした生活に必要な基礎的なサービスは。  
町長 高規格救急車も平成23年度に整備する計画、ドクターヘリについても、今年10月初旬から運行予定である。老朽化した病院を診療所に来年から建設、ござくら荘も10床増設しお年寄りをきちんと受け入れる計画で進めているのでご理解を。

質問 人口減少と高齢化が進行することが見込まれ、わが町も2035年には約1400人に想定されるが、どのように考えているか。  
町長 深地層の関連企業の研究機関を要請している実態で、人口の歯止めの特効薬は無いのが現状です。人口の流失を食い止めるように努力し、関係機関と連携を取り進めていきたい。

質問 雇用機会の不足と

いった経済活動に関することで地元での暮らしの維持を望んでいる。深地層の関連も良いが、中長期的な企業を誘致し、若年層の定住を図っていかねければならないと思うが。  
町長 地元で住みたいと言う方々が多いのは承知している。農業・商工業の後継者が減ってきている状況です。後継者・花嫁対策の問題、いろいろありますが、関係機関と連携を図りながら、経済的な助成もしていかなければならない。



幌延駅前通りの風景